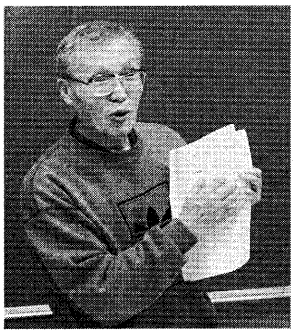
2003年度に退職される方々へ

赤　石　忠　男　教授



主なご経歴

昭和36年３月　日本体育大学卒業
昭和36年４月　岩手県立軽米高等学校教諭
昭和39年４月　岩手県立盛岡第三高等学校教諭
昭和41年４月　岩手県立盛岡短期大学　講師
昭和47年４月　岩手県立盛岡短期大学　助教授
平成元年４月　岩手県立盛岡短期大学　教授
平成10年４月　岩手県立大学社会福祉学部　教授

赤石先生のこと

赤石忠男先生は、昭和36年（1961）に県立軽米高校教諭に就任されて以来43年間の長きに亘り、岩手県の高校教育、短期大学教育、そして大学教育に尽力されてこられた。その間先生は、岩手県立大学の母体となった盛岡短期大学時代に、二度に亘って付属「こまくさ幼稚園」の園長を勤められた。とりわけ二度目の園長時代は、盛岡短期大学から岩手県立大学への移行期と重なり、最後の付属園長として、そして本学部の児童福祉コースの立ち上げにと、心労の多い時期を過ごされた。さらには、岩手県立大学開学に当たっては、本学部の専門の授業以外に、全学教育科目「体育実技」の主担当としても種々ご尽力されてきた。赤石先生が岩手県立大学を停年に拠り退職されるに当たり、その長年に亘る教育者としてのご尽力とご功績に対して、僭越ながら深甚なる敬意をもって深謝申し上げたい。

先生の教育者としての43年間はまた、岩手のバレーボール競技の資質向上と発展普及とに、ひたすら精魂を傾注するものであった。それは、先生ご自身が、高校時代にバレーボールの名選手として活躍された実績と、学生時代に研鑽を積まれた指導方法とがあってこそのものだが、そこに、先生の、ふるさと岩手の若き後進たちに寄せる深い愛情と、不断の励ましとがあったことは間違いない。

先生のバレーボール指導を、わたしは何度か拝見したことがあった。それは、選手の資質と性格とを的確に捉え、厳しいなかにぬくもりを持ったものであった。厳しい叱咤のなかにユーモアがあった。選手は、知らず知らずのうちに先生一流の指導に引き込まれ、実力がめきめきと向上していった。「赤石マジック」である。

その、先生の優れたバレーボール指導力は、大学の「体育実技」、「保育内容」、「レクレーション指導法」の授業においても、ゼミの指導にあっても遺憾なく発揮されてあった。先生のゼミには笑いが絶えず、学生間に仲間の輪が広がっていった。「赤石マジック」は、先生の優れた教育方法でもあった。学生の成長を何よりも大事にする先生は、学生から慕わ続ける先生でもあった。

赤石先生は、こよなく酒を愛する先生でもある。先生と何度酒席を、わたしはご一緒したことか。先生の酒は、気取らずに飲む酒で、調子が出ると陽気に歌い、時に駄洒落を飛ばし、ついには同席のみんなを煙に巻くものであった。ここでも、「赤石マジック」だった。いつも楽しく同席したことを、いま思い起こす。

ふるさと岩手の園児を、高校生を、短期大学生を、大学生をぬくもりのある教育によって指導され、バレーボールを愛し続けてこられた赤石先生。先生の、長年のご功績に改めて敬意を表し、これからのご健康を祈るとともに、楽しい酒席でまたお目にかかることを切に願う次第である。

（佐々木民夫）